

駿河湾のサクラエビを捕食する 害魚に関する第1次調査の概要

中井甚二郎・小坂昌也・久保田 正・小椋将弘

Outline of the First Survey on the Predation of *Sergestes lucens* by Fish in the Suruga Bay

Zinziro NAKAI, Masaya KOSAKA, Tadashi KUBOTA and Masahiro OGURA.

東海大学海洋学部業績A第14号 1965年8月31日受理

駿河湾のサクラエビ資源の分布、移動、再生産に重要な関係をもつと思われる捕食魚類に関する知見を得るため、現地漁民からの聞き取り調査とサクラエビ漁業混獲物の食性調査を実施したので、その結果の概要を報告する。

年間をつうじて、各種漁業によって漁獲される多くの魚種の食性を調査することが困難であるので、予備的調査としてサクラエビ捕食魚について、漁民の長年の経験的知見を収集することにした。そのため、サクラエビ漁業の主要地である由比、小川、大井川漁協および静岡県庁関野らから聞き取り調査を行なった。それらの結果を総合すると、サクラエビ捕食魚（大部分地方名）は、メイゴ、ノドグロ、モオソウ、タチウオ、ハダカイワシ、コセイダイ、サバ、マイワシ、レンコダイ、アマダイ、アジ、カマス、パラムツ、イナダなどである。

1964年10月16・17日に焼津沖のサクラエビ漁場で、混獲された魚種について、胃内容物調査を行なった。調査魚類は13種である。そのうち、胃中にサクラエビが存在しなかった種は、カガミダイ、メイタガレイ、アカカマス、ショサウイフグ、タチウオ、ウルメイワシ、ハダカエソ、オキヒイラギの8種である。しかし、これらの魚種がサクラエビの捕食魚でないか否かは今後の十分な調査にまたねば断定できない。

サクラエビ捕食の確認された魚種とその捕食状態はつぎの通りである。

種 名	個体数	体 長	捕 食 個体数	捕食エビ 個 体 数
ハ シ キ ン メ	11尾	66—179mm	9 尾	1—6 尾
クロシビカマス	2 尾	122, 411mm	2 尾	9尾, 消化
ミズテンゴ	2 尾	206, 226mm	2 尾	1, 6 尾
ワニギス	1 尾	48mm	1 尾	消 化
ハダカイワシ	20尾	43—100mm	16尾	1—9 尾

以上の捕食魚5種のうち、ハダカイワシはサクラエビといつも混獲され、その混獲量も他の捕食魚に比較して非常に多い。そこで、ハダカイワシは、サクラエビの最も重要な捕食魚であり、サクラエビの生態に重要な役割をしている可能性があるものと考えられる。

なお本研究に要した経費の一部は文部省科学試験研究費補助金による。